

令和3年度学校法人のびる学園

幼保連携型認定こども園のびる幼稚園事業報告

1、園児募集および入所者の推移

表：令和3年度認可定員と利用者の推移

学年（学級数）	認可定員	4月	9月	3月
年長（2）	50人	53人	53人	53人
年中（2）	50人	54人	54人	54人
年少（2）	50人	52人	52人	52人
満三歳（1）	20人	0人	14人	18人
2歳児（1）	12人	15人	13人	13人
1歳児（1）	6人	8人	8人	8人
0歳児（1）	3人	0人	1人	1人
合計	191人	182人	195人	199人

本年も昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から体験保育を中止し、入園希望者の保護者への説明会を開催した。実際に保育を体験してもらうことが出来ず、入園希望者に本園の理念や保育の概要を伝えることの難しさを感じたが、画像等を見てもらうことにより入園希望者が分かりやすい方法で入園説明を行った。

当年度の利用者は年度末で199人となり、定員を8人超えた利用者があった。数字的には少子化の影響は見られないが、市内公立幼稚園の休園や保育需要の高まりにより弾力的に少子化の影響を受けない状況であり、今後は少子化による利用者減に対する対策は急務であると感じられる。

2、保育計画及び教育計画

当園の教育目標である「自分で遊びをみつけられる子」を中心の理念に据え、各学年で教育目標を設定し、保育の質を高める為に努力した。しかしながら、保護者の就労等による保育の需要の高まりによって園児の在園時間が長くなった為、指導計画の為の会議・保育環境の設定・保育内容の共有等を職員同士が対面で行う機会が少なくなっている。当年度は会議記録等で情報共有を行ったが、紙媒体での情報共有では意見の交換もできず限界があるように感じられた。シフト管理等を強化し、しっかりとした会議を行うことにより、情報共有に不備がないように改善したい。

職員の研修に関しては、上記と同様の理由により全員での園内研修を行うことは大変困難であったが、希望保育日等を利用しなるべく多くの職員が参加できる日に行った。その他、静岡県私立幼稚園協会・静岡県保育連合会等が開催する研修会には積極的に参加したが、新型コロナウイルス感染症拡大懸念から研修会がリモート参加や中止になったものも多かった。

また、年度末には次年度から本格運用予定の園児管理システムを前倒しで稼働させた。出席管理・園児記録・メール・費用管理が一括で管理出来るようになった。教職員の負担軽減につながるにより、より良い保育が出来ることを期待したい。

3、学校評価委員会

当年度も引き続き学校評議委員の方々に来園していただき保育を観覧して頂き、後の委員会で忌憚のない意見を頂いた。委員会で頂いた意見は自己評価とともに纏めて、別紙にて報告する。

4、設備の整備及び管理

将来の園舎の大規模修繕や建替を見越して、当年度は施設整備に係る引当特定資産に13,200千円を積立てた。

のびる後援会の寄付により調理室への虫の侵入を防ぐ為フィルタ付の屋外換気扇フードを設置した。

年度末には、IT補助金を利用し園児管理システムの運用にPC等のITツールを整備した。

5、採用及び人材育成

当年度も人材不足の波を感じざるをえない状況であった。また、当年度は中途離職5名と年度末離職3名と職員離職数が多く、職場環境の改革は急務であると考えられる。しかしながら、新卒1名及び中途1名の計2名の採用を年度内に決定し、2名の非常勤職員を年度中に採用した。人材育成に関しては、新卒はもちろんほか人材を育成することのできる人材をつくる必要性を感じた。

6、財務運営および運営管理

財務会計は適切に処理された。

運営に関し、当年度の通園バス運営は利用者負担の他施設型給付費の通園送迎加算を加

味しても大きな赤字を生んでいる状態である。しかしながら、教育活動においては、園外保育等に利用出来大変有意義な存在であることも確かなので、今後も維持していきたい。

学校法人のびる学園

理事長 月野進